



中村 安雄 議員

建てるのか、建てないのか？

市民の広場に多目的施設の建設について最終決断を

議員

市民の広場については、多くの市民から、「多目的施設をつかって使い勝手がいいようにしてもらいたい」という請願等が出されている。今のまちの中の姿は、大変衰退した姿である。選挙のたびにまちの活性化をしようという願いを込めて選挙運動がされているが、現実には実を結ぶことなく、現在に至っている。現市長に攻撃的な内容で選挙戦が戦われるということが次のステップに踏み出せない障害になっている部分があると思う。せめて継続的な事業は何として、もやり遂げていただかないと、大変残念なことになってしまう。前向きに最終的な決断をしていただき、市民の願いをかなえていただきたい。

市長

市民の広場は今日まで約2年間使用してきているが、十分に有効活用されているとはいえないのが現状である。議員や住民の皆さんから具体的な提案もなされており、それらもすべて含

議員

めて、現在、具体的な検討作業に入っている。2月の議会に具体的な案として提示をしていきたいと思っている。

市長

この場所はお手洗いだけあればいいというものではない。やはりきちんとした施設があるからこそ、人の集客ができると思う。施設をつくるような予算化をするつもりがあるか。

議員

施設も含めて検討していきたい。具体的な案を出すということとは、当然予算措置も含む。

多目的施設を含めて予算化をしていただいて、早い機会に市民の願いをかなえていただくようお願いをしたい。



市民の広場

□ 園 園 園 JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI □ 園 園 園

農業を通じた体験学習を



子どもたちの心を育む総合的学習の活用について



小学校の田植え体験（常総市）

議員

福島県喜多方市の小学校には農業科があり、小学生に農業を教えている。話を聞くと、「作物を育てることで子どもたちの心を育てる」ということであった。現実に喜多方市では中学校でのいじめが非常に少なくなった。みんなで力を合わせて、畑を耕し、種をまき、肥やしをやって、数カ月かかって育てる。1人ではできない。最後はみんなで収穫する。今は小学校全校でやっている。子どもたちが一生懸命に農業体験して友達を思い、命の大切さ、自然の恐ろしさを実

中島 亨一 議員

感じて覚えていく。作物を育てることも心を育てる一つなんだと考えるが、常総市でもやってみようか。

教育長

喜多方市の取り組みは、地域の特色を生かした素晴らしいものと考えます。当市では、田植えから稲刈り、さらに食に至るまで稲作体験を学習している小学校が8校、各種野菜の栽培などについて学習している小学校が9校ある。中学校では、「夢」をテーマとして掲げ、職場体験で自分の適性を探ったり、被災地訪問や広島の平和学習を行ったりしている学校もある。当市の総合的な学習の時間のあり方は、各学校の実態にあったものとなっていると考えています。しかし、議員からの貴重な情報を大切に、各学校にも紹介しながら今後取り組んでいきたい一つの領域と考える。

議員

人間十人十色で、多様性を大事にすべきである。そのためには、夢を追うことができる教育環境をつくらなければならない。総合的学習の時間を有意義に使うことを考え、教育活動にさらに頑張っていたいただきたい。